

平成6年度生研公開講演

(平成6年6月2日, 3日 於第一会議室)

所長挨拶

本日は生産技術研究所の公開に、そして講演会あるいはいろいろな展示にご参加いただきましてありがとうございます。

生産技術研究所、ご存知だと思いますが、工学に関する、基礎から応用まで幅広い範囲の研究を行っております東京大学の研究所の一つでございます。教授、助教授合わせますと約100人ぐらいの教官が、それぞれの独立した研究室を持ちながら、自分の創造性に基づいた研究を中心しております。もちろんそういう各個の研究が私どもの最大の財産でございますが、学際的な研究をするとか、あるいはグループの単位が小さすぎるという場合には、幾つかの研究室がグループを組みまして、グループ研究を行っております。オフィシャルなもの、インオフィシャルなものを含めましておそらく30か40のグループがあるかと思いますが、新しい研究をこのなかから生み出しつつございます。さらにもう10年もかけると一つのディスプレイが創生できるときには研究センターを時限でつくっています。現在4つのセンターがございます。このように、3つのレベルの研究体制をとっております。公開の機会、あるいはさまざまな機会を利用させていただきまして、世の中の方、社会の方からご理解をいただき、また貴重なご批判、ご意見をうかがえればと思っている次第でございます。

私どもの研究の公開というのは、私どもの成果を単に外に出すということ以外に、外部の方からいろいろなご意見をいただくという貴重な機会でございますので、こういう機会をぜひご理解いただきまして、ご意見をいただければと思います。

生研は、外とのつきあい、とくに外国とのつきあい、世界とのつきあいが非常に多いところですよ。きょうお話しいただく講師のお1人、堀越先生は、生産技術研究所の客員教授ということで、この専任ではなくて企業の方です。生研の講演会で企業の方がお話しいただくほど私どもは開かれた研究所でございます。またそれと逆に、企業の方が、企業の研究の成果を発表されるときに、私どもの教官を使っただけならば、またそれもレシプロカル・アクセスとしてありがたい話だと思いますので、よろしく願いいたします。

生研公開は、日頃の私共の努力を紹介する機会ですが、単に研究成果を誇るということだけでなく、社会が、生産技術研究所は、優れた頭脳の集団であって、社会がその存在を誇りに思うような研究所にしたい、少し夢物語みたいな話と思われるかもしれませんが、このように考えておりますので、ぜひご理解いただきたいと思っております。それではご講演をお楽しみいただきたいと思っております。そのあと展示物等もごらんになられまして、ご批判賜れば幸いです。どうもありがとうございました。